

## スター・マンスリープラス

【投信協会商品分類】 追加型投信/内外/資産複合

【設定日】 2003年9月18日

【信託期間】 無期限

【決算日】 原則毎月2日

### 運用実績

#### 基準価額および純資産総額

基準価額	8,203円
純資産総額	1.49億円

※ 基準価額は、分配金控除後です。

#### 期間別騰落率

	当ファンド	ベンチマーク	差
過去1ヵ月間	0.12%	0.76%	-0.64%
過去3ヵ月間	-0.68%	0.29%	-0.97%
過去6ヵ月間	0.31%	1.52%	-1.22%
過去1年間	2.69%	3.72%	-1.03%
過去3年間	15.49%	20.61%	-5.12%
過去5年間	56.77%	68.99%	-12.22%
設定来	40.78%	72.13%	-31.36%

※ ファンドの騰落率は、当ファンドに分配実績があった場合に、税引前の分配金を再投資したものと計算しており、実際の騰落率とは異なります。

※ 設定来のファンド騰落率は、10,000円を基準として計算しております。

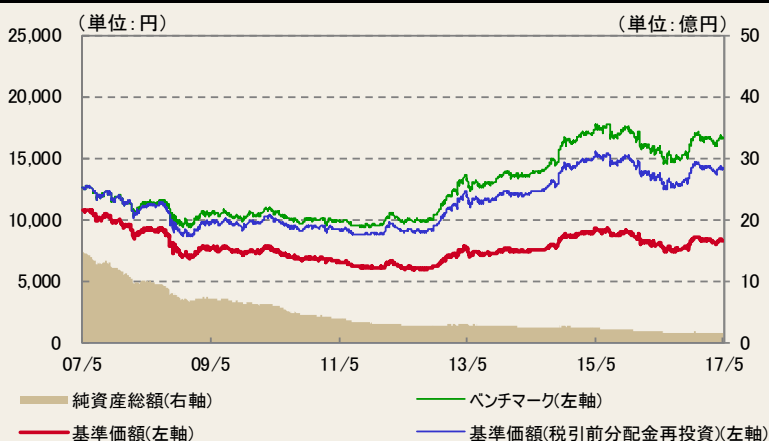
#### 分配実績(直近5期分/1万口当たり、税引前)

2017年01月	10円
2017年02月	10円
2017年03月	10円
2017年04月	10円
2017年05月	10円
直近1年間累計	140円
設定来累計	4,430円

※ 収益分配金額は委託会社が決定します。分配を行わないこともあります。

#### 基準価額・純資産の推移

2007/05/31～2017/05/31



※ 基準価額(税引前分配金再投資)は、分配実績があった場合に、税引前の分配金を決算日の基準価額で再投資したものと計算しております(以下同じ)。

※ 基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)の計算において信託報酬(純資産総額に対して年率1.4%(税抜き))は控除されております。なお、信託報酬には消費税が加算されます(以下同じ)。

※ ベンチマークの推移は、表示期間の期首の基準価額(税引前分配金再投資)をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

※ 分配実績がない場合、あるいは設定来累計の分配金額が少額の場合、基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)のグラフが重なって表示される場合があります。

#### 構成比率

	純資産比
損保ジャパンTCW・MBSマザーファンド	77.60%
損保ジャパン日本株マザーファンド	19.38%
コール・ローン等	3.02%

## 主要な資産の状況①：損保ジャパン日本株マザーファンド

#### 構成比率(マザーファンド)

	純資産比
株式	98.09%
コール・ローン等	1.91%

#### 業種別構成比率(マザーファンド)

業種	純資産比
情報・通信業	12.2%
銀行業	11.1%
輸送用機器	10.9%
電気機器	7.4%
小売業	6.8%
不動産業	5.4%
鉄鋼	5.1%
医薬品	4.4%
保険業	4.2%
その他	30.7%

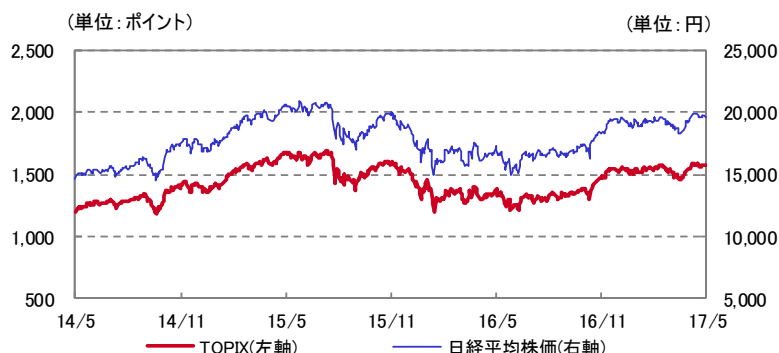
#### 組入上位10銘柄(マザーファンド)

銘柄名	業種	純資産比
1 日本電信電話	情報・通信業	4.2%
2 KDDI	情報・通信業	3.4%
3 本田技研	輸送用機器	3.2%
4 三菱UFJフィナンシャルG	銀行業	3.0%
5 トヨタ自動車	輸送用機器	2.9%
6 みずほフィナンシャルG	銀行業	2.7%
7 三井住友フィナンシャルG	銀行業	2.5%
8 第一生命HLDGS	保険業	2.4%
9 日立	電気機器	2.4%
10 デンソー	輸送用機器	2.4%
組入銘柄数		90銘柄

## スター・マンスリープラス

### <ご参考>

#### 日経平均株価・TOPIX動向(過去3年) 2014/05/30~2017/05/31



#### 日経平均株価・TOPIXの騰落率(対前月末)

	日経平均株価(円)	TOPIX(ポイント)
2017年4月28日	19,196.74	1,531.80
2017年5月31日	19,650.57	1,568.37
騰落率	2.36%	2.39%

#### TOPIX業種別騰落率(対前月末、東証33業種)

上位5業種	
業種	騰落率
1 その他製品	11.81%
2 食料品	8.12%
3 情報・通信業	6.83%
4 建設業	6.74%
5 電気・ガス業	6.35%
下位5業種	
業種	騰落率
1 海運業	-6.60%
2 石油・石炭製品	-5.26%
3 鉱業	-4.68%
4 繊維製品	-3.76%
5 鉄鋼	-3.70%

出所: Bloomberg

### 市場動向と今後の見通し

#### ○先月の市場動向

5月の国内株式市場は月間ベースで+2.39%となりました。欧米の政治リスクが後退したことからリスクオンの流れとなり、株価は上昇しました。一時、円高進行に伴い株価は下落したものの、内需関連銘柄を中心に株価は堅調に推移しました。

初旬は、GWの谷間だったことなどから売買代金は低調に推移したものの、米議会が歳出法案に暫定合意した安心感から好業績銘柄を中心に株価は上昇しました。その後、7日の仏大統領選の決選投票で中道派のマクロン氏が勝利したことで不透明感が後退したことから、株価は続伸しました。

中旬は、S&P500(用語解説 1)が史上最高値を更新するなど、引き続きリスク選好の地合いが続いたものの、佳境を迎えた国内3月期決算企業の決算発表に絡む個別銘柄の物色で売買代金が膨らむ中で、株価は一進一退の展開となりました。その後、米トランプ大統領によるロシアへの情報漏洩疑惑から、為替が一時1ドル110円台まで円高が進行したことで外需関連銘柄を中心に株価は下落しました。

下旬は、金利や為替が目立った動きが見られない材料難の中、外部環境に影響を受けにくい内需関連銘柄を中心に株価は上昇しました。その後、北朝鮮のミサイル発射で地政学リスクが意識されたものの、下値は固く株価は横ばいとなりました。

#### ○今後の見通し

当面の国内株式市場は、堅調に推移すると予想しています。

今年度の企業業績は、円高影響の一巡や、循環的な国内外の景気回復を背景に、前期比で増益となる見通しです。期初段階においては、不透明な外部環境などを理由に保守的な業績計画を発表する企業が多く見られましたが、今後は期が進むにつれて上方修正が優勢となり、株価上昇をサポートする要因になると予想しています。

米トランプ政権の政策実行力や地政学問題などに神経質となる局面を迎える可能性も考えられますが、国内外経済は好調を維持すると予想していること、海外市場に比べバリュエーションに割高感がないこと、良好な株式需給環境が継続する見通しであることなどから、国内株式市場は徐々に下値を切り上げる展開を予想しています。

#### ○今後注目されるニュース

6月の中旬にFOMC(米連邦公開市場委員会)(用語解説 2)が予定されています。市場参加者の多くが利上げを予想しており、実現すれば年内2度目の利上げとなることからその動向に注目が集まります。

### 用語解説

#### 1. S&P500

S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス(S&P Dow Jones Indices)が算出している株価指数で、ニューヨーク証券取引所、NASDAQなどに上場している銘柄から代表的な500銘柄を時価総額ベースで算出し、指数化したものです。ニューヨーク市場の時価総額の80%をカバーしていることから、米国株式市場の動向を示す指標として注目されています。

#### 2. FOMC(米連邦公開市場委員会)

米国金融政策の最高意思決定機関であり、政策金利の誘導目標、マネーサプライの調整など公開市場操作の方針や景況判断を決定する会合のことです。原則として6週間毎に年8回開催されます。FOMC後に即日公表される声明文は、米国経済の見通しが語られることから市場参加者に注目されています。

## スター・マンスリープラス

### 主要な資産の状況②：損保ジャパン-TCW・MBSマザーファンド

#### 構成比率(マザーファンド)

	純資産比
公社債	97.19%
コール・ローン等	2.81%

#### 種類別構成比率(マザーファンド)

種類	純資産比
特殊債券	87.6%
国債証券	9.6%

#### 組入上位10銘柄(マザーファンド)

銘柄名	種類	償還日	純資産比
1 FNCL 4.5 6/17	特殊債券	2047/06/25	9.7%
2 US TREASURY N/B 1.25%	国債証券	2019/03/31	7.4%
3 FNCL 4 6/17	特殊債券	2047/06/25	4.2%
4 G2SF 4 6/17	特殊債券	2047/06/20	3.8%
5 G2 MA3736	特殊債券	2046/06/20	3.0%
6 FNCL 3.5 6/17	特殊債券	2047/06/25	2.9%
7 G2SF 4.5 6/17	特殊債券	2047/06/20	2.7%
8 FN AH1183	特殊債券	2026/01/01	2.7%
9 FNCI 3 6/17	特殊債券	2032/06/25	2.4%
10 FG G08715	特殊債券	2046/07/01	2.3%
組入銘柄数			72銘柄

### 米国市場動向

#### 【国債市場】

5月の債券利回りは、小幅低下（価格は上昇）しました。

上旬は、FOMC（米連邦公開市場委員会）の声明文において、緩やかなペースでの利上げが正当化されるとの認識を示したことで、6月会合での追加利上げが一層意識され、利回りは上昇傾向となりました。しかし、その後、月末にかけては、消費者物価指数や小売売上高など市場予想を下回る経済指標が続いたことや、トランプ大統領のスキャンダル報道から米政権に対する疑念が高まり、利回りは低下傾向が続き、月末の水準は前月末より小幅低下しました。

#### 【MBS市場】

5月のMBSのспредは概ね横ばいとなりました。

上旬のFOMCの声明文では金融緩和が縮小方針であることが確認され、保有する債券購入規模の縮小観測が高まったものの、その影響については不透明であることから市場の反応は限定的であり、MBSのспредは横ばいとなりました。

#### 【為替市場】

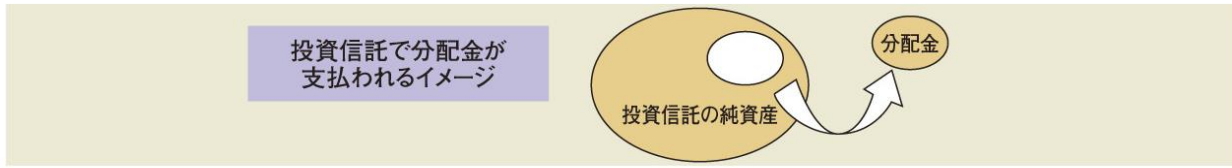
5月のドル円相場は、前月末とほぼ同水準となりました。

ドル円は、地政学リスクの後退やFOMC（米連邦公開市場委員会）のやや強気な声明文、フランス大統領選でのマクロン氏勝利などから、月半ばにかけて、ドル高円安基調で推移しました。しかし、その後は、トランプ大統領のスキャンダル報道から米政権に対する疑念が高まると、ドルが売られる展開となり、月末の水準は前月末とほぼ同水準となりました。

# スター・マンスリープラス

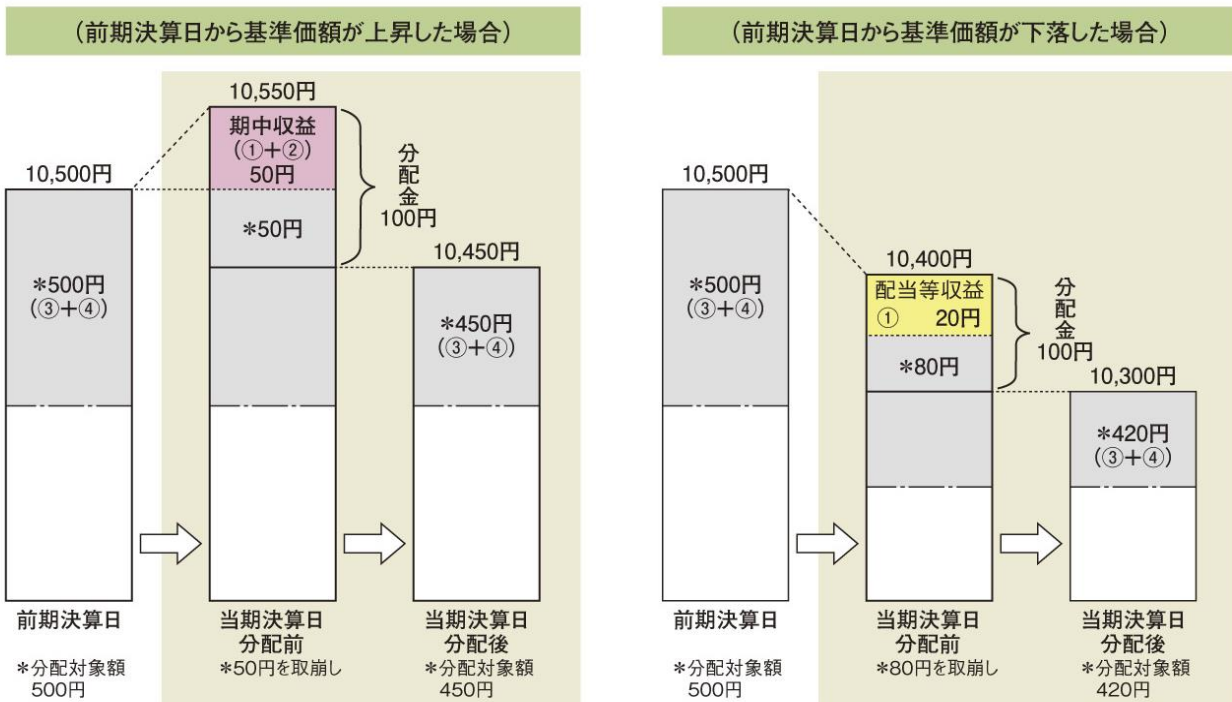
## 投資信託の収益分配金に関する留意事項

◆分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



◆分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

(計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合)



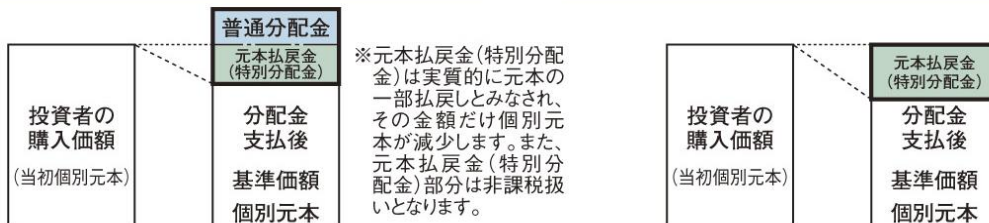
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意下さい。

◆投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

(分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合)

(分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合)



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。  
元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。



## スター・マンスリープラス

### ●委託会社・その他の関係法人

委託会社	ファンドの運用の指図を行います。 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者（関東財務局長（金商）第351号） 加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 ホームページ： <a href="http://www.sjnk-am.co.jp/">http://www.sjnk-am.co.jp/</a> 電話番号：0120-69-5432 ●クライアントサービス第二部
受託会社	ファンドの財産の保管及び管理を行います。 みずほ信託銀行株式会社（再信託受託会社：資産管理サービス信託銀行株式会社）
販売会社	受益権の一部解約の実行の請求の受付、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金および一部解約金の支払等を行います。 株式会社東京スター銀行 登録金融機関（関東財務局長（登金）第579号） 加入協会 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会

#### <当ファンドのベンチマークについて>

当ファンドの運用は、ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス（円ベース）80%と東証株価指数（TOPIX）20%の合成インデックスを上回る収益率の獲得およびリスクの分散を図ることを目指します。

※ ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスは、ブルームバーグが公表しているインデックスであり、エージェンシー発行のMBS市場のパフォーマンスをあらわします。ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ピーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社（以下「ブルームバーグ」と総称します。）またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

※ 東証株価指数とは、東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時（1968年1月4日終値）の時価総額を100としてその後の時価総額を指数化したものです。東証株価指数に関する著作権、その他の一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

#### 当資料のご利用にあたっての注意事項

- ◆ 当資料は、損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社が受益者の皆様への情報提供のみを目的として作成したものであり、投資信託の販売を目的とするものではありません。また、法令に基づく開示書類ではありません。
- ◆ 当ファンドは、値動きのある証券に投資しますので、基準価額は大きく変動します。また、外貨建て資産に投資する場合には、為替リスクがあります。投資信託は、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。
- ◆ 信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者の皆様に帰属します。投資に関する最終決定はご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。
- ◆ 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ◆ 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- ◆ 当資料に記載されているグラフ・数値等は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。分配金に関しては、運用状況によっては、分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。
- ◆ ファンドマネージャーのコメント、方針、その他の予測数値等については、作成時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等により、当該運用方針やその他予測数値等が変更される場合があります。また、記載した内容は、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- ◆ 当資料に記載されている各数値は四捨五入して表示していることがありますので、誤差が生じている場合があります。
- ◆ 当資料に記載されている各事項につきましては、正確性を期しておりますが、その正確性を保証するものではありません。当資料に記載の当社の意見等は予告なく変更することがあります。